

200 切手が語る日仏交流（2023 年 10 月 5 日）

前回、2021 年にラ・ポスト（フランス郵政公社）と日本郵便が共同で発行しポストの切手をご紹介します。これ以外に、フランスで日本に関連する切手が発行されたことがあるのでしょうか。

パリにある郵便博物館には、最初の切手が発行された 1894 年から現在まで、フランス本土で発行された全ての切手を展示しています（前回の記事でご紹介したサン=ピエール=エ=ミクロン島で発行された切手は含まれていません。）。この中で、日本と関連のあるデザインの切手を探してみました。

まず、「フランスにおける日本年 1997-1998」を記念して 1997 年に発行された切手です（写真右）。背景に描かれている建物は、エッフェル塔近くにあり、ガラス張りの建物が印象的なパリ日本文化会館です。同年 5 月 13 日、清子内親王殿下（当時）とシラク大統領（当時）の臨席の下、同会館の開館式典が行われました。日本年の期間中は、パリのみならず地方都市においても様々な日本関連の文化行事が行われました。



この切手の左側にある茶色い像は、奈良県斑鳩町にある法隆寺が所蔵する百済観音です。7 世紀の前半から中期にかけて作られたと考えられています。この仏像は日本の国宝で、法隆寺は「法隆寺地域の仏教建造物」として 1993 年にユネスコの世界遺産に登録されました。この百済観音は、日本年の目玉のイベントとして、ルーブル美術館で特別展示されました。日本を愛し、日本美術に造詣が深かったシラク大統領が、フランスでの百済観音の展示を強く希望したと伝えられています。前年の橋本龍太郎総理大臣（当時）との首脳会談によって、双方の国の国宝級の美術品を交換展示することが合意され、百済観音は初めて海を渡りました。

この展覧会のカタログにシラク大統領が寄稿したメッセージには、「百済観音がパリに来たのは、約 30 年前に日本でモナ・リザやミロのヴィーナスを日本に貸し出したことに応えたもの」と書かれています。ミロのヴィーナスは東京オリンピックが開催された 1964 年に国立西洋美術館で、レオナルド・ダ・ヴィンチ作のモナ・リザは 1974 年に東京国立博物館で、それぞれ特別公開されました。ミロのヴィーナスの特別公開には約 83 万人、モナ・リザ展には約 150 万人の来場者が詰めかけました。

そして、大統領のメッセージの最後に、「この豊かな対話が続くことを願います。フランスは、日本におけるフランス年の一環として、1999 年にドラクロワ作の名画「民衆を導く自由の女神」を貸し出し、この対話の継続に貢献します。」と締めくくっています。首脳合意によって、1999 年に東京国立博物館でドラク

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ロワ作「民衆を導く自由の女神」が展示されました。それに先立ち、1998年に日本でこの作品をデザインした切手が発行されました（写真右）。このように日本とフランスの国宝級の作品は、お互いの国で記念切手となりました。



その後、2013年には世界各国の舞台用の仮面の切手シリーズが発行され、日本の能面がその一つに選ばれました（写真右の右側）。2015年には葛飾北斎による「富嶽三十六景」の中の「神奈川冲浪裏」（写真下の左）、2017年には世界の景色シリーズの一つとして富士山（写真下の中央）がデザインされた切手が発行されました。富士山と北斎は、日本語の中で最も知られた言葉ではないかと思いますので、これらが切手になったことは誰もが納得することでしょう。2018年には、[マリー＝アントワネットの漆器コレクション](#)であった犬の形をした日本の入れ物（写真下の右）が、ヨーロッパや中国で作られた犬の形の美術作品と合わせて切手になりました。



小さな切手にも、日本とフランスの文化交流の歴史を見ることができます。